鹿児島市立病院だより

都市農業センター

・病院長　新年度のご挨拶
・事務局長就任のご挨拶
・新任医師を迎えて
・初期臨床研修医を迎えて
・新人看護師を迎えて
・新病院建設現状報告
・呼吸ケアチーム回診
・認定看護師公開講座
・放射線～新しいＣＴ機器～

病院広報・医療連携誌
平成２６年５月　第17号

平成２６年度を迎えて

鹿児島市立病院長
坪内　博仁

桜の季節とともに、平成２６年度がスタートしました。この季節は、人事異動の季節でもあります。３月末に長く当院の発展に貢献してこられた波多江産婦人科部長ならびに植田医療安全管理室長（副総看護師長）が定年で退職されました。波多江先生は、婦人科領域の悪性腫瘍の治療に大きな実績を残され、鹿児島県医師会理事としても活躍してこられました。また、植田医療安全管理室長は、急性期病院である当院の医療安全の要として、いろいろな制度設計をされました。当院と連携していただいている病院の皆様にとっても、私たちと同じように、残念な思いをされていることと思います。波多江先生の後任には上塘正人先生が昇任し、市立病院の看板診療科の一つである産婦人科をリードすることになりました。上塘部長は当院の生え抜きであり、地域の先生方からの大きな期待にも十分応えてくれるものと思っています。また、消化器科に堀　剛先生が（部長待遇）帰り、同時に消化器内科も６名に増員されました。堀先生は肝癌や肝炎治療のエクスパートであり、また、船川慶太科長は、佐久総合病院の小山医師のもとで１年間研修した実績を持ち、ESDなどの内視鏡治療や胆膵領域の内視鏡診断・治療のエキスパートです。連携していただいている先生方のお役にたてる人材だと期待しています。さらに、精神科の畑　幸宏先生（部長待遇）にも、県立姶良病院から来ていただきました。当院に精神科医師が常勤するのは初めてであり、当面、院内リエゾンを中心に活躍していただく予定です。当院の医療の質の向上に貢献していただけるものと期待しています。

また、本年度は、医師・看護師だけでなく、薬剤師、放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、視能訓練士、臨床工学士などのコメディカルスタッフの大幅な定員増が認められました。年度内に、所定の手続きを経て、採用試験を実施することになりますが、コメディカルスタッフの充実は、間違いなく医療の質の向上に貢献すると思っています。

先日、久しぶりに建設中の病院を見学しました。建物の外観は以前のままですが、中に入って歩いてみると、１階の外来部分やメインストリートはかなり広くて長いことがわかります。１階では、放射線診断や治療装置を設置する部屋の工事も進み、その壁の厚さに驚かされました。また、工事用のエレベーターで高層階にも上りましたが、そこからの景観は素晴らしい眺めでした。当初の予定では来年１月の竣工を目指しており、予定通り工事が進捗するよう願っているところです。

病床の機能分化を目指した本年度の診療報酬改定の詳細が明らかになりました。先生方の施設におかれましても、種々の対応を迫られていることと思いますが、高度急性期病床である当院にとっても、在宅復帰や回復期を受け入れる地域包括ケア病棟との連携が極めて重要になってきています。これまで以上に地域の先生方と連携を深めることが必要で、本年度もどうかよろしくお願い申し上げます。

就任のご挨拶

事務局長

秋野　博臣

春から初夏へと変わり、楠木の新緑が目にまぶしい季節となりました。

この４月に市立病院に参りまして、ひと月が過ぎようとしております。

医療の世界にはほとんど縁がなかった私にとって、院内で交わされる言葉や配られる資料など、初めて見聞きするものばかりで、戸惑ってばかりの日々でした。

歴史と伝統のある鹿児島市立病院の一員として仲間入りできることを、大変光栄に思っています。

特に今年は新病院の建設が最終段階であること、また開院・移転に向けた準備に本格的に取り組む時期であることから、責任の重さを感じております。

今、鹿児島市立病院は、名実ともに新しい医療機関として変わろうとしております。この大きな転換の時期に立ち会えることは、とても光栄なことであると思います。

院長先生を中心に職員の皆さんをはじめ関係機関・団体の方々と協力しながら、しっかりと務めてまいりたいと思います。

外来を見学すると、診察や治療を待つ多くの患者さん、その周りで忙しく動き回るスタッフ、薬品納入や機器調整のために来ている業界の方々など、とにかく人の多さや動きの忙しさに圧倒されます。

私ごとですが、20年ほど前に当時小学生だった長男が盲腸炎をこじらせ、ここ市立病院で緊急手術をしていただき、一命を取り留めたことがありました。親としてなすすべも無くぼう然とする中で、術前術後にスタッフのみなさんが迅速・丁寧に処置し、また親切に対応していただいたことに、ただただ感謝感激したことを覚えております。その病院で仕事をさせていただくことになり、これも何かのご縁と思うことでした。

患者さんやその家族にとって、病院職員の言葉や対応は、治療だけでなく心の救いでもあります。

市立病院が最も頼りになる医療機関としてさらに充実するよう、また地域の中核的総合病院として十分に機能できるよう、事務局の立場でしっかり取り組んでまいりたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

循環器科

部長　　濱崎　秀一

‘鹿児島市立病院に着任して思うこと’

平成25年10月１日に鹿児島市立病院に着任しました。救急医療と先端医療を主軸とする鹿児島市立病院において、大病院でありながらお互いの距離感を感じさせない医療関係者の皆様ならびに意欲的で優秀な研修医の先生方と一緒に働けることは大きな喜びです。

着任してまもなく導入された電子カルテに振り回され余裕のない診療が続いていましたが、半年たってやっと患者さんの尊顔を拝しながらの外来診療が少しできるようになりました。

最近の医療の欠点として『余裕のない医療』が指摘されます。ガイドラインの治療指針を盲目的に追随し、管理医療に時間を費やしてきた結果、患者さんに対し余裕のない冷たい医療になってきていることへの批判だと思います。温かい医療を回復するには医療従事者に余裕がなければできません。医療事故に対しては危機管理が重要だと思います。しかし医療事故を未然に防ぐためには危機管理よりも生命をあずかる医療従事者の『余裕ある医療』を確保することが大事であると思います。

鹿児島市立病院も平成27年５月より新病院での診療が始まります。若い医師達に夢と希望を与え生きがいのある日々を送れるような病院になって欲しいと切に願っています。若い医師達がhappyであることを実感できれば、患者さん達も必ずやhappyになれると思います。そのために少しでもお役に立ちたいと考えています。

産婦人科

部長　　上塘　正人

４月１日付けで産婦人科部長としての職に就かせて頂くことになりました。

私は1986年鹿児島大学卒業と同時に市立病院産婦人科に入局致しました。当時は救急センターやICUも無く、重症患者は回復室で管理をしている時代でした。いまでは信じられないでしょうが、詰め所や外来での喫煙は禁止されておらず、灰皿は随所に常備されている時代です。そのころの研修医としての過酷な生活は私の良い思い出です。その後、1988年から1992年まで米国で研修し、市立病院医師として採用され現在に至っています。産婦人科部長も外西寿彦先生、池ノ上克先生、そして波多江正紀先生と３人の先生が代わられましたが、名実共に尊敬できる先輩医師を引き継ぐにあたっては非常に重圧を感じていることは事実です。しかし、28年間市立病院を見続けてきた私にも出来ることが多々あると考えています。産婦人科医療のレベルアップ、活性化や鹿児島県レベルでの周産期医療の再構築に貢献出来ればと熱意を燃やしております。部長就任にあたっては、産婦人科医局の後輩医師の助けを借りながら様々な問題にあたっていきたいと考えています。未熟な点が多々ありますが、皆様どうぞ宜しくお願い申し上げます。

を迎えて

消化器科

部長待遇　　堀　　剛

“地域医療に貢献できる市立病院消化器科を目指して”

皆様には日頃よりご支援いただき深くお礼申し上げます。

消化器科は平成26年４月より鹿児島大学消化器疾患・生活習慣病学井戸章雄教授の支援のもと、私を含め４名の消化器内科医が増員され計６名となりました。大学病院を中心とした医療ネットワークの一翼を担うべき拠点病院として機能しうる人選になったと自負しております。

船川は消化管（咽頭～大腸）の癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、膵臓癌の早期診断を行う超音波内視鏡下穿刺吸引術（EUS-FNA）等において高度な技術をもち、そのサポートをすべく軸屋が着任しております。私と熊谷は肝臓内科医として、肝癌の治療、食道胃静脈瘤に対する内視鏡的治療等を担当しております。最新の医療機器も導入され、坪内院長の指導のもと美園副院長、吉永科長とともに、消化管、肝胆膵領域の高度医療を行える体制が整っております。

消化器科に課せられた責務は、診療所、病院の先生方にとって“使いやすい　市立病院”を実践すること、さらに10年後の鹿児島県の医療を支える人材を育成し、鹿児島の医療組織に供給することであると考えております。今後も市民、県民の皆様の期待に応えられる医療を提供できるよう努力したいと考えておりますので、引き続きご支援よろしくお願いいたします。

呼吸器外科

部長待遇　　柳　正和

平成26年１月より呼吸器外科新設に伴い赴任した柳　正和です。

呼吸器外科は肺がんを中心に、肺転移，肺良性腫瘍，難治性感染症，縦隔腫瘍，胸壁軟部腫瘍，気胸，血胸，胸部外傷，気道狭窄，異物，呼吸困難などを対象とした診断、治療を担います。日本人での死因はがんが最も多く、中でも肺がんが第１位で今後も増加が予想されています。肺がんの中で手術を受けるのは３分の１ほどで、その皆さんすべてが治癒するわけではありません。しかしメスでしか救えない患者さんが多くいるのも事実です。患者さんが手術台に上ってもらえることに感謝し、ベストを尽くす所存です。

一方３分の２は手術以外の治療、すなわち化学療法，放射線療法，緩和療法などが必要で、呼吸器外科には手術だけでなく、これらすべてを診る力が必要とされています。がんを診るのではなく、がんを持つ人を診るのが当院の目標だと思います。呼吸器内科、放射線科はもちろんすべての診療科、部所とともに呼吸器というLife Organを持つすべての患者さんを支えていきたいと思います。

精神科

部長待遇　　畑　幸宏

平成26年４月１日よりメンタル診察室に勤務させていただいております。

自治医科大学を卒業し，離島勤務等義務年限を終了後に鹿児島大学精神科へ入局いたしました。これまで鹿児島大学病院，鹿児島県立姶良病院で勤務してまいりました。

鹿児島県の医療の中核を担う鹿児島市立病院において，精神科医はしばらく不在の時期がありました。そのため、何ができるのか、何をすべきなのか、を模索している状態で、現在は入院患者さんへの対応のみとさせていただいております。これまで精神障害がある患者さんへの対応は無論のこと、緩和ケア，せん妄やがんこな不眠への対応、患者さんの精神的状態の判断等をさせていただきました。今後も病院の理念である“安心安全な質の高い医療の提供”に資するよう、入院患者さんが少しでも安心して過ごせるお手伝いができたら、と考えております。

ご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

脳神経外科

科長　　川原　隆

平成26年１月から脳神経外科で勤務している「川原隆」と申します。

以前より脳神経外科には「川原団」先生が在籍しておりますが、これからは二人の「川原」になります。先日、同僚の脳外科医や外来看護師さんが、二人をどう呼ぶか相談されているのを聞きました。隆は「大」、団は「小」とのこと…とてもショックです。そんなに太って見えるなんて…(*_*)しばらくはダイエットのため自転車通勤、勤務時間は階段利用を頑張ります。病院食堂の美味しい唐揚げ弁当も、出来るだけ控えるように決意しています。

私は前任地の厚地脳神経外科病院で、正常圧水頭症に対する腰椎腹腔シャント術を多く経験し、脳脊髄液に関係する疾患に興味を持っていました。しかし鹿児島市立病院に勤務してまだ数か月しかたっていませんが、ドクターヘリや24時間何でも受け入れる救急センターなど素晴らしい設備やスタッフが整っているので、今まで経験もしたことのない様々な患者さんを診療する機会を得られています。

合併症が多くてこれまでは治療困難と思っていた患者さんも、多くの診療科の協力で治療を行うことが出来ています。とても素晴らしい勉強の機会をいただいたと感謝している次第です。

そして私自身も皆さんのお役にたてるように頑張っていきますので、御指導、御鞭撻の程よろしくお願いします。

新生児科

科長　　徳久　琢也

平成26年４月１日から新生児科へ配属となりました徳久琢也と申します。

周産期医療、新生児の治療が専門です。2012年まで当院新生児科に勤務しており、２年ぶりの赴任となります。２年間の不在期間でしたが、この間の鹿児島市立病院の変化（進歩）に驚いております。中でも電子カルテが一番大きな変化で、紙カルテにはない利便性を感じつつも、使いこなすにはもう少し時間がかかりそうです。

平成27年には新病院への移転が控えております。これからの１年は、今までに経験したことのないような更なる変化（進歩）の年になると思います。

新生児センターに入院している赤ちゃんたちの安全、万全な転院方法を考えると夜も眠れなくなりますが、今後も「鹿児島でお産したい、お産して良かった」と思っていただけるようがんばりたいと思います。

よろしくお願いいたします。

放射線科

科長　　中山　博史

はじめまして、放射線科の中山博史です。

新任医師の挨拶、とのタイトルでの執筆を依頼されたのですが、着任してから早くも９か月がすぎ去ろうとしております。なので、少し照れくさいですが・・・

着任する前までは、この規模の病院で放射線科読影専門医が不在、CTやMRI室に看護師不在という非常に稀有な状態で、着任時は、何から手をつけたらよいか手探り状態でしたが、院長をはじめとして、部長、看護師、放射線技師、など様々な職種の方々の協力をいただき、なんとか現在の読影スタイルに持ってくることができました。

検査の予約等でまだまだ、不満な点や不慣な点があると思いますが、もっと簡潔にできるように頑張りたいと考えておりますので、もう少し御辛抱ください。

また、放射線科に関してですが、当科は単独で存在できる診療科ではなく、他科との共存の上に成り立っているものと考えております。診療科が多いほど自分も日々精進させていただけると思います。実際、新生児や婦人科の患者の多さに驚きを隠せないでいる状態で、呼吸器外科増設、内科の増員や泌尿器科の手術件数の増加など、この病院が、ますます活性化しており、画像診断の必要性が増すことは必然と思われ、精進しないといけないと肝に銘じておりますが、読影医師数も足らず、今まで経験したことのない症例も多数あり、心もとない読影だと思いますが、温かく見守ってください。今後ともよろしくお願いします。

平成26年度初期臨床研修と研修終了後の動向について

鹿児島市立病院　副院長
美園　俊明

平成16年から始まった初期臨床研修医制度も、今年で11年目となりました。

この間当院では、全国32の大学医学部から133名の研修医を迎え、このうち107名はすでに巣立ち、現在、26名の初期臨床研修医が早朝から深夜に至るまで研修に励んでおります。

今年度の初期臨床研修医は、定員16名で募集いたしました。応募者は23名でしたが、最終的にマッチングできたのが13名、うち２人は国家試験に不合格となり、結局11名となりました。

定員を大幅に下回ることになり残念ではありますが、この11名は写真のごとくやる気溢れる若者で、出身大学は、鹿児島大学が８名、熊本大学が２名、東邦大学が１名であります。一時期は男女同数までになったのですが、今年は女性がわずか１名でした。

４月２日よりこの11名の臨床研修医に対して、表のごとくオリエンテーションを６日間実施いたしました。これからの研修に際し必要最低限だが極めて重要な事項を中心に、各部署の責任者から講義や実地説明をしていただき、さらに外部講師として、徳留修身鹿児島市保健所長に保健所の役割を、医療と法律については福元法律事務所の福元紳一弁護士に貴重な講義をしていただいております。オリエンテーションの最終日には、朝から夕まで終日を使い、一年先輩の研修医と１対１のペアになり Shadowing による実習形式で実施しております。この Shadowing は、頭で描いていた研修概要が実感として具体性を持ち、研修医にはたいへん評判がよく、また先輩研修医も大いに張り切って指導しており、期待以上の効果をもたらしているようです。

これから２年間、各診療科のローテイト研修が始まるわけですが、初年度は内科系６カ月、救命救急センター３カ月、外科系３カ月を研修後、２年目は地域医療（大勝病院、パールランド病院、米盛病院、手打ち診療所から選択）1カ月、精神科（県立姶良病院、伊敷病院から選択）1カ月、指定選択科（小児科、産婦人科、新生児科、麻酔科から選択）２カ月の計４ヶ月を義務とし、残り８カ月は研修医の希望に沿った自由選択科を研修することになります。救急救命センターではドクターヘリ搭乗など貴重な体験も希望できます。医療技術のみでなく医師としての総合的な実力において、一時も早く先輩たちに続く強力な戦力へと成長されることを願っております。なお、このプログラムについては、平成27年度の新病院からは、定員数、研修診療科など見直すことにしております。

さて、今年研修終了し巣立っていった先輩たち15名の動向は、鹿児島大学に８名（脳外科、泌尿器科、小児科、呼吸器内科、旧第二外科、旧第三内科が各１名、旧第一内科２名）、当院後期研修医として周産期センターに１名、その他の施設６名（東大形成外科、九大耳鼻科、九大心臓外科、名古屋大学救急集中治療部、長崎大学第二外科、川崎幸病院内科に各１名）でした。県外の施設が多かったことは、一名でも多くの医師を県内に確保したいとする立場からは極めて残念な気もしますが、固い意志と希望を持って巣立った結果であり、心から応援したいと思っております。

平成26年度　卒後臨床研修オリエンテーション

日　時　　平成２６年４月２日（水曜日）～４月９日（水曜日）
対象者　　平成２６年度から医師卒後臨床研修を開始する臨床研修医　１１人

月　日	４月２日（水曜日）	４月３日（木曜日）	４月４日（金曜日）	４月７日（月曜日）	４月８日（火曜日）	４月９日（水曜日）
場　所						各診療科
午前	9:00～9:20（20分） 休　憩 9:30～10:30（60分） 「処遇等について」 事務局 休　憩 10:40～11:20（40分） 「卒後臨床研修開始にあたって」 病院紹介 院長	9:00～9:30（30分） 事務局から 9:30～10:40（70分） 「病理診断・CPC」 臨床病理科部長 休　憩 10:50～11:50（60分） 「保健所の役割について」 保健所 講師	9:00～9:50（50分） 「看護業務について」 看護科看護部長 休　憩 10:00～11:10（70分） 「当院の新生児医療について」 周産期医療センター（新生児科）部長 休　憩 11:20～12:00（40分） 「地域医療連携について」 医療連携室師長	9:00～10:30（90分） 「心肺蘇生法－１」 麻酔科部長 休　憩 10:40～12:00（80分） 「心肺蘇生法－２」 麻酔科部長	9:00～10:40（100分） 「医療安全管理について」 医療安全管理室 師長 （感染管理担当） 感染認定看護師 休　憩 10:50～12:00（70分） 「院内感染対策」70分 小児科部長	Shadowing （各診療科）
	（昼　食）	（昼　食）	（昼　食）	（昼　食）	（昼　食）	（昼　食）
午後	13:10～14:20（70分） 「診療情報・医療情報・診療録の記載及び管理、医療情報の提供、諸証明書」 副院長 休　憩 14:30～15:30（60分） 「施設案内」 副院長 休　憩 15:40～16:40（60分） 「人工呼吸器の取扱い」 ME機器管理室	13:10～14:40（90分） 「当院の周産期医療について」 産婦人科部長 休　憩 14:50～15:50（60分） 薬剤部門１ 薬剤科部長 休　憩 16:00～17:00（60分） 薬剤部門２ 薬剤科部長	13:10～14:40（90分） 「医療と法律」 法律事務所 休　憩 14:50～15:50（60分） 臨床検査技術部門１　60分 臨床検査技術科主幹 休　憩 16:00～17:00（60分） 臨床検査技術部門２　60分 臨床検査技術科主幹	13:10～14:20（70分） 「保険診療について」 外科部長 休　憩 14:30～15:30（60分） 手技（採血室） 看護科 休　憩 15:50～17:00（70分） 「食事管理及び栄養法について」 消化器科部長 医事課栄養係	13:10～14:40（90分） 「救命救急センターの運営について」 救命救急センター部長 救命救急センター看護師長 休　憩 14:50～15:50（60分） 放射線部門１　60分 放射線技術科主幹 休　憩 16:00～17:00（60分） 放射線部門２　60分 放射線技術科主幹	Shadowing （各診療科）

新人看護師を迎えて

副総看護師長（教育担当）

原田　ひさ子

今年の看護科は、明るく、元気な新採用者が59名入り、約700名の看護師が勤務する大きな組織になりました。新任者教育では、超急性期医療を担うチームの一員として活躍できるように今年度も基礎的臨床実践能力習得を目標に教育プログラムを企画し、採用研修を実施しました。

研修内容は、接遇、２日目以降は『患者の安全と看護師の責務』として①看護記録について②中央材料室の業務と滅菌物の取扱い ③口腔ケアについて ④医療情報に関する基礎知識として物品管理・看護必要度、クリニカルパスについて ⑤医療事故防止 ⑥感染管理 ⑦与薬に関する基礎的知識と基本的看護技術の習得 ⑧ME機器の取り扱い方の８項目について５日間の講義と演習を行いました。特に医療事故防止については、医療事故防止の基本的知識と医療事故の構造、医療安全トレーニングによる危険予知・対策については事例検討を行いました。また、感染管理については感染予防対策の知識の習得、個人防具着脱、オムツ交換の仕方、手指衛生などの演を行い、基本的な看護技術からは、静脈採血の方法、薬剤と注射器の取扱い等の基本的手技の演習を行いました。

研修後のアンケートでは、「リスク感性を高めて、適切なケアをしていきたい」「６R、３度のチェックをして確実に実施したい」「採血の演習ができてよかった」「個人情報は遵守したい」などの前向きな意見が聞かれました。

新採用研修後の各部署の新人教育は、チームサポート制を取り入れて新人看護師１人に実地指導者１人を決めてチーム全員で新人看護師をサポートしています。

新人看護師研修風景、教育プログラムをご紹介いたします。

新採用研修（平成26年度　４月入職時）

月　日	４月１日	４月２日	４月３日	４月４日	４月７日
曜　日	火	水	木	金	月
場　所	学術ホール	学術ホール	学術ホール	学術ホール	学術ホール
８：30 ９：00 10：00	集合 看護部長挨拶 職員係書類記入説明 諸書類の記入 病院概要 看護科概要 継続教育 目標管理 ラダー 成長記録の説明 辞令公布式	講義 患者の安全と看護師の責務① 看護記録の概念	講義 患者の安全と看護師の責務④ 医療事故防止	講義 患者の安全と看護師の責務⑥ 与薬の基礎知識	職員係担当
	休憩10：45～11：00	休憩10：30～10：45	休憩10：30～10：45	休憩10：30～10：45	
１：00	自己紹介 11：40～12：00 看護師長紹介	講義 患者の安全と責務② 中央材料室の業務 滅菌物の取り扱い	演習 医療事故防止	講義 患者の安全と看護師の責務⑦ ME機器の取り扱い	職員係担当
昼　休憩					
13：00	組合加入説明	13：00～13：30 口腔ケア　講演 講演 患者の安全と看護師の責務③ 医療情報の扱い方 物品管理	講義 患者の安全と責務⑤ 感染管理 職業感染防止	演習 静脈採血の方法と実際 輸液ラインの作成 ６Ｒに応じた手順の実際	職員係担当
	休憩14：00～14：10	休憩15：00～15：15	休憩15：00～15：15	休憩15：00～15：15	
14：10	講義　演習 接遇について 講義 医療の現状と看護師の役割 更衣室案内	講義 看護必要度 講義 クリニカルパス	演習 適切な手指衛生 手洗いの実際 マスク・エプロンの着脱法 ゴミの分別	演習 薬剤と注射器の取り扱い 薬剤投与の方法	職員係担当 16：50師長が迎えに来て各部署へ

鹿児島市立病院建設工事 ～竣工年度を迎え～

病院建設室
室長　　上田　良二

新病院の工事も工事着手から１年８ヶ月以上が経過し、ついに竣工年度を迎えることとなりました。

工事着手時点では、現場は何もない広大な敷地であり、新しい建物が建つ姿を頭の中で想像しながら工事を進めてまいりましたが、徐々にその姿を現してまいりました。これも、病院建設事業につきまして日頃からご理解とご協力いただいております皆様方のおかげでございます。

これから竣工に向けて内装工事や電気・機械設備工事などがピークを迎えることから、再度身を引き締め、皆様方のご協力を得ながら工事を進めてまいります。

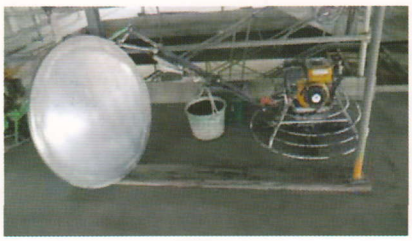
それでは、新病院の工事状況を紹介いたします。

①　１階売店付近を支える梁
　大スパンを実現するため、プレストレスコンクリート造の梁を採用しています。

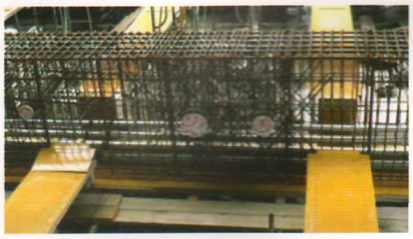
②　１階正面玄関・エントランスホール付近
　１階の梁の高さが人の身長位あり、その大きさがわかると思います。

③　正面玄関付近のコンクリート打設
　手前では、コンクリートのこて押えをしています。

④　足がコンクリートの中に埋もれないよう特殊な靴を履いています。



⑤　こて押さえの機械の裏側です。



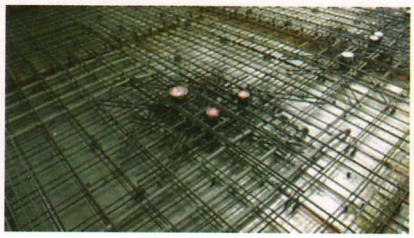
⑥　梁の配筋状況
　縦の鉄筋を切断した場合、このように補強の鉄筋を入れます。

⑦　鋼矢板の打込み状況
　地盤面約４.０ｍに消防用の貯水槽を設置するため、掘削を行う前に長さ９.５ｍの鋼矢板を地中に打ち込んでいます。

⑧　鋼矢板の打込み状況
　油圧の圧入機を使い油圧ジャッキの伸縮動作で鋼矢板を打込んでいます。

⑨　ＬＩＮＡＣ天井部
　１階放射線治療のＬＩＮＡＣの天井内に打込む鉛の鉄板です。

⑩　遮蔽鉄板
　鉄板26枚
　合計の厚み645mm



⑪　鉄筋工事(床)の施工状況
　床に排水用の穴などを開けた場合、写真のように補強の鉄筋をいれます。

⑫　外観
　外来部門（２階建）の屋根から病棟を見上げています。

⑬　工事現場の状況
　整然と仮設材が並べられています。
　この時点で作業員の乗る車の台数は約100台です。

⑭　躯体作業の状況
　患者・見舞客用ＥＶまわり、スタッフ用ＥＶまわりはより強固にするために、鉄骨に更に鉄筋を入れ、コンクリートを打設し、頑丈に作ります。

⑮　エネルギーセンター
　エネルギーセンターの地下の躯体工事が終わり、地上で足場の組立作業をしています。

今後は、舗装や植栽等の外構工事や保育所建設工事も始まり、建物の中と外で複数の工事が同時に進みますが、徹底した安全管理のもと工事を行ってまいります。

呼吸ケアチーム活動報告

救命救急科
下野　謙慎

皆様こんにちは。今回、私たちが日頃活動してる呼吸ケアチームに関しまして、紹介の機会を得ましたのでここに報告させて頂きます。

私は救急医として救急センターでの初期診療に加え、重症感染症（敗血症）・多発外傷・心停止蘇生後などの重症患者を集中治療室(以下ICU)にて受け持たせていただいています。ICUでは、看護師や臨床工学技師、およびリハビリスタッフとともに、患者さんが１日でも早く回復するように治療にあたっています。患者さんの状態を１番間近にみて把握しているのは看護師ですし、呼吸器などの機器に詳しいのは臨床工学技師です。リハビリに関してはリハビリスタッフの力なしには成り立ちません。したがってICUでは、日々チームで治療に携わっています。

このような仲間達と約２年前に院内呼吸ケアチームを立ち上げました。目的は人工呼吸器の安全管理と呼吸器からの早期離脱の支援です。メンバーは医師（救急医、呼吸器内科医、歯科医）・看護師（集中治療認定看護師）・臨床工学技士・理学療法士の４つの職種から成っています。週に１回、病棟・ICUの人工呼吸器の装着された患者さんをチームで回診し、機器のチェックや設定の確認を行っています。人工呼吸器の世界は他の医療と同様に日進月歩で進んでいます。人工呼吸器の機種も改変されたり、同じ呼吸器でも新しいモードのソフトウェアが追加されていたり、こちらの理解がついていかないこともしばしばです。また、人工呼吸管理で難しいのは、同じ患者さんでも状態によって求められる設定が変わってくることです。

全身状態が不安定な侵襲期は呼吸器にて十分なサポートが求められますし、反対に状態が落ち着いてきたら、過大なサポートは離脱の邪魔になります。絶対に正しい設定などなく、患者さんの状態に合わせて調節していくしかありません。

重症患者管理に欠かせない人工呼吸器ですが、実は医学部の授業ではあまり系統立てて学ぶ機会はありません。中には、病棟で不安を感じながら呼吸器を扱っているスタッフもいると思います。そういった方々が少しでも安心して人工呼吸器管理に取り組めるようにサポートするのが私たちの役目と考えております。もちろんこれといった正解がないことも多いと思いますが、皆様と一緒に考え悩むことはできます。気軽に相談いただければ幸いです。

呼吸ケアチーム回診風景

認定看護師　公開講座

感染管理　　認定看護師　土屋　香代子
皮膚・排泄ケア　認定看護師　永田　富美子
手術看護　　認定看護師　松元　勇智

当院では、初めての取り組みとして、第１回認定看護師公開講座が、平成26年１月18日に開催され、手術室・病棟・外来や病棟勤務と兼務されている方など187名の参加をいただき無事に終えることができました。

講演は、「周術期看護における感染・皮膚障害は予測できる」をテーマとし、３分野（感染管理，皮膚・排泄ケア，手術看護）の専門分野を活かし、コラボレーションした内容としました。

周術期における感染対策と皮膚損傷ケアについて、それぞれのガイドラインにそって解説し、ガイドラインをふまえた具体的な手術現場の実際を説明しました。

また、手術室・病棟・外来各部署が、術前・術中・術後の患者情報を共有し、看護が継続されることが重要であることを講演のまとめとしました。会場からは、体温管理や手術室の温度調整など、日常の看護実践に関する質問がありました。

また、鹿屋医療センター中宮チズ子副院長兼総看護師長のご協力をいただき、３月15日に、大隅地区の手術室看護研究会で40名の参加をいただき、同様に講演させていただきました。

講演後の懇親会では、それぞれの施設の現状や課題などの報告があり、情報共有することで、自施設の問題や改善点を見出すことができ、とても有意義な時間となりました。

２つの講座のアンケート結果より、各分野の認定看護師がコラボレーションした講座企画のご要望を多くいただきました。

26年度は「救急看護・集中ケア・脳卒中リハビリテーション看護」の企画を予定しています。
日時は平成26年11月８日（土）　14時～16時を予定しています。
皆様のご参加を心よりお待ちしております。詳細につきましては、後日お知らせいたします。

大隅地区手術室看護研究会　H26.３.15

救急センターのＣＴが新しくなりました

～最新式エリアディテクタCT（320列ＣＴ装置）に更新～

放射線技術科

太田原　美郎

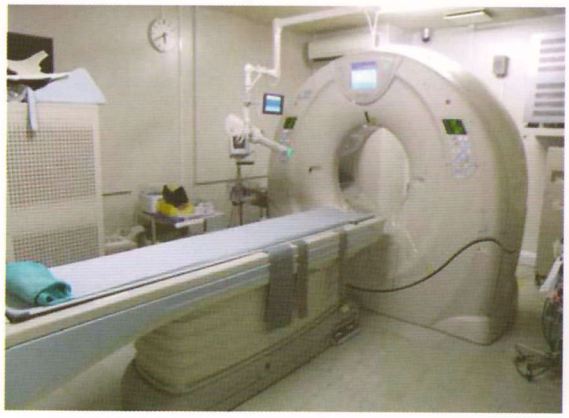
救急救命センターＣＴが、最新式のエリアディテクタ（ＡＤ）ＣＴ装置（東芝Aquilion ONE^{TM}/ ViSION Edition）に更新されましたので、お知らせいたします。

今回更新されたＣＴの大きな特徴は、これまで４列だった検出器が320列になったことで、160mmの範囲を１回転で捕らえる大型の面検出器が搭載されています。撮影スピードが早くなったことで、検査時の息止めや身体の静止が難しい救急患者においても、動きの少ない画像が得られるようになり、救急救命センターに最適なＣＴとなっております。

また、患者寝台の左右動機能という新しい機能やガントリー部の開口径（検査時に入る筒状の大きな窓）の大きさも780mmとなり、従来の型より60mmも大きくなっています。救急センターで患者をバックボードのまま撮影する際や患者急変時のアプローチも容易になり、安全性や操作性の面からもより適したものとなっています。

さらに、ＡＩＤＲ３Ｄ（エイダースリーディー）という新しい技術により、50％程度の被ばく低減も可能となり、患者さんが抱く医療被ばくへの不安を取り除くことができます。

今後、この最新式ＣＴ装置の機能を十分に発揮させ、地域の医療に貢献したいと考えています。



鹿児島市立病院だより　第17号

発刊日：平成26年５月
発行者：〒892-8580　鹿児島市加治屋町20-17
　　坪内　博仁　鹿児島市立病院長（事業管理者）
担　当：医療連携室・広報委員会
ＴＥＬ：099-216-3631
ＦＡＸ：099-216-3632

この広報誌は、紙へのリサイクルに適した材料を用いて作成しています。